【119】

氏　名（本籍）	芳賀博文（北海道）
学位の種類	博　士（理　学）
学位記番号	博甲第 2315 号
学位授与年月日	平成12年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	World System of Cities in Terms of Overseas Office Locations of Transnational Banks （多国籍銀行の店舗立地からみた世界的都市群システム）

主　査	筑波大学教授	理学博士	高橋伸夫
副　査	筑波大学教授	理学博士	斎藤　功
主　査	筑波大学教授	理学博士	田林　明
主　査	筑波大学教授	理学博士	手塚　章
副　査	筑波大学助教授	理学博士	村山祐司

論文の内容の要旨

本研究は，世界レベルでの都市群システムの構造を，多国籍銀行が有する海外店舗の立地分析を通して解明することを課題とした。従来，都市群システムの研究は，社会科科学における国家システムの完結性・自立性が前提とされてきたことにより，一国レベルの枠組みにおいて理解されてきた。しかしながら，経済活動の国際化・グローバル化の進展に伴い，世界経済における結節点としての都市の重要性が増大し，都市間の国境を超えた関係が顕在化してきた。ゆえに世界レベルでの都市群システムの構造を解明することは，世界経済の詳細な空間構造を理解するために有意義である。

研究方法は，世界の都市をシステムの要素とみなし，システムにおける各要素の特性と，要素間の関係とを個別に検討した。前者の指標として，多国籍銀行の海外店舗の都市別立地集積数を用いて，後者の指標として，多国籍銀行の店舗網により形成される都市間の結合関係を使用した。最後に，両特性を総合した世界的都市群システムモデルを構築した。

分析は，まず第2章で，世界の主要1,000銀行の海外店舗立地を，研究対象とした世界の135都市について総て集計した。集計された都市別のデータから，「対外進出指数」・「対外受容指数」を算出し，両指数の比率と絶対値から都市を8階層の類型に分類して，世界の都市間の階層構造を明らかにした。続く第3章では，多国籍銀行の店舗網により形成される本店－海外店舗間の関係を，都市間結合のODデータとして用いた。そして，結合する2都市間双方からの銀行進出数を合計した「銀行相互進出数」を，各都市間の結合強度を計る指標として計測し，結合強度別の都市連関図を作成して，世界の都市間の結合構造を明らかにした。最後に第4章では，第2章・第3章で得られた都市間の階層構造及び結合構造の空間的特性を個別に検討した。

結論として，多国籍銀行の店舗立地からみた世界的な都市群システムの構造モデルを得た。本モデルは，「南北アメリカ」・「ヨーロッパ」・「アジアーオセアニア」の，世界の三極を中心とした3つの領域を基盤として形成され，それぞれの領域が，「対外進出型都市」・「対外受容型都市」・「対外受容特化型都市」の，三次元に分類される都市群を内包する構造を有している。各々の都市間には，地球規模に展開する「グローバルリンケージ」，三極となる各領域の内部で結びつく「ローカルリンケージ」，そして，旧宗主国－植民地関係を踏襲する「コロニアルリ

ンケージ」の，３種類の形態をなす結合関係が存在している。当該モデルから，世界的な都市群システムには，ローカルリンケージにおける上位都市と下位都市との間に展開する，クリスタラー型の垂直的な結合関係と，グローバルリンケージにおける最上位階層の都市相互間，及びローカルリンケージにおける上位・中位階層都市の相互間に展開する，プレット型の水平的な結合関係とが並存する特徴を有していることが判明した。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究の主要な評価は，次の３点である。第１に，従来，国家単位で行われてきた都市群システムの研究を，世界規模の都市群システムの分析に適用し，研究の枠組みを発展させた。第２に，世界的に統一された都市に関する統計データ類がほとんど存在しない状況下で，独自にデータを工夫して作成し，世界規模での都市地理学の研究方法を深化させた。第３に，世界的な都市群システムの実証的なモデルを呈示し，世界の都市間に存在する関係を明確に説明した。

よって，著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。